

愛媛県の地震

2021年（令和3年）3月

目次

- 1．愛媛県周辺の震央分布図…………… 1
- 2．地震概況（3月）…………… 1
- 3．地震一口メモ
 - 津波のしくみ…………… 2

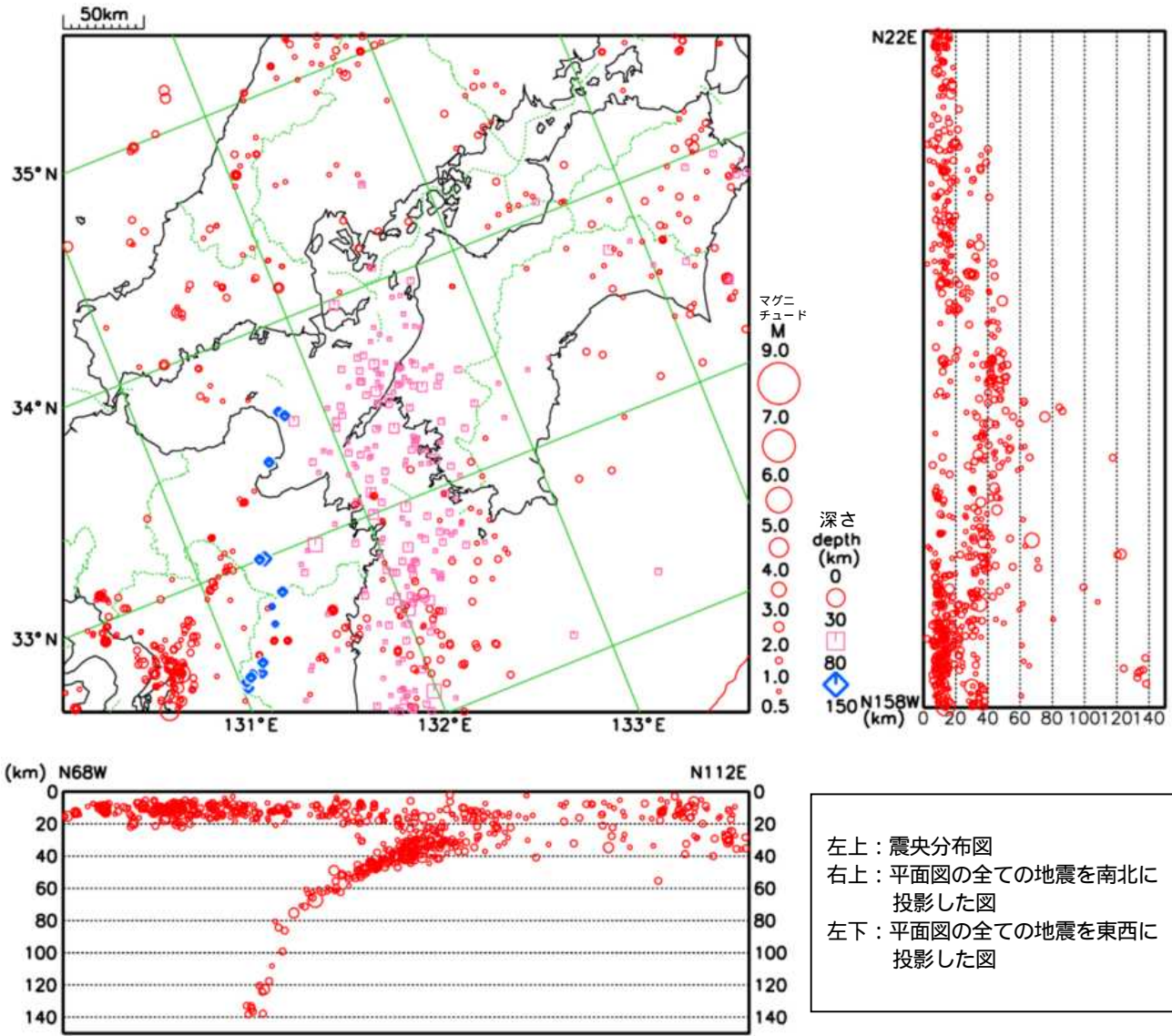
本資料に記載した震源要素（緯度、経度、深さ、マグニチュード）は、暫定値です。これらは、後日、再調査のうえ修正することがあります。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。

また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

松山地方気象台

1 . 愛媛県周辺の震央分布図 [2021 年 3 月 1 日 ~ 3 月 31 日]



左上：震央分布図
 右上：平面図の全ての地震を南北に投影した図
 左下：平面図の全ての地震を東西に投影した図

震央分布図は地震が発生した場所を地図上でプロットしたものです。地震は地下で発生しますのでシンボルマークの形を深さに応じて変えています。よりの方が深い場所で発生した地震です。また、シンボルマークの大きさで地震の規模（マグニチュード）を表現しています。

2 . 地震概況（3月）

今期間に、上図の震央分布図内の領域で決定した地震のうち M2.0 以上の地震の回数は 48 回（先月は 51 回）、愛媛県内で震度 1 以上を観測した地震は 0 回（先月は 2 回）でした。

3.地震一口メモ

津波のしくみ

海底下で大きな地震が発生すると、断層運動により海底が隆起もしくは沈降します。これに伴って海面が変動し、大きな波となって四方八方に伝播するものが津波です（図1）。

「津波の前には必ず潮が引く」という言い伝えがありますが、必ずしもそうではありません。地震を生じさせた地下の断層の傾きや方向によっては、また、津波が発生した場所と海岸との位置関係によっては、潮が引くことなく最初に大きな波が海岸に押し寄せせる場合もあります。津波は引き波で始まるとは限らないのです。



図1 津波が発生するメカニズム

津波は、海が深いほど速く伝わる性質があり、沖合ではジェット機に匹敵する速さで伝わります。逆に、水深が浅くなるほど速度が遅くなるため、津波が陸地に近づくにつれ、減速した波の前方部に後方が追いつくことで、波高が高くなります（図2）。水深が浅いところで遅くなるといっても、人が走って逃げ切れるものではありません。

津波から命を守るためには、津波が海岸にやってくるのを見てから避難を始めたのでは間に合わないのです。海岸付近で地震の揺れを感じたら、または、津波警報が発表されたら、実際に津波が見えなくても、速やかに避難しましょう。津波は、一度だけでなく複数回にわたり襲来し、第一波より第二波や第三波などの後から来襲する波の方が高いケースもあります。いったん波が引いても、津波警報が解除されるまでは避難を継続してください。津波警報が出ている間は、絶対に戻ってはいけません。

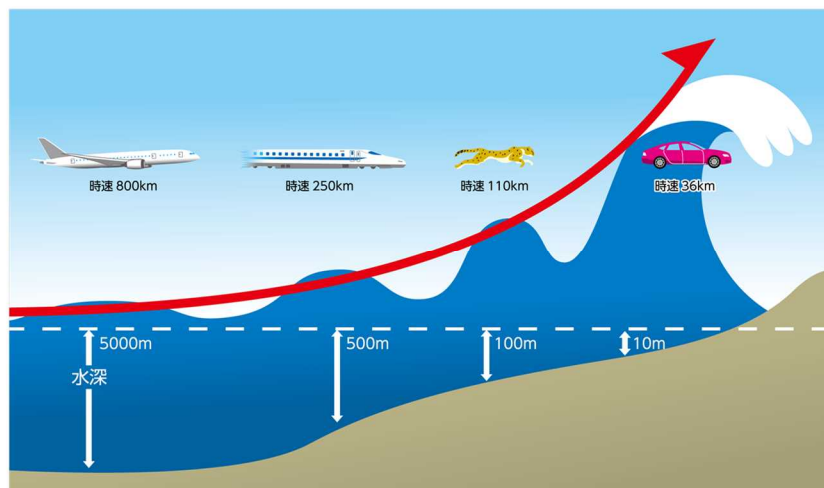


図2 津波の伝わる速さと高さ